

十勝の平和のあゆみ

2012年11月17日(土)

第36回全道基地問題交流集会 in 帯広

帯広平和委員会 竹腰三男/藤岡博史

① はじめに

帯広市での開催を機に、これまでの十勝での平和の闘いをまとめたいと考えた。最近20数年の闘いは、見たり読んだり参加したりして知ってはいたが、それ以前の闘いは資料も少なく、当時運動の中心だった人たちも死去や高齢で証言を得られず、調べるのが大変だった。しかし、安保条約を廃棄して軍隊も基地も軍事演習もない平和な日本・北海道・十勝を実現する運動は、過去から脈々と続いている。これからも、成果や教訓を引き継いで運動を発展させていきたい。

② ロラン C 基地設置反対・撤去の闘い (1961-63)

1960年日米安全保障条約が改定される時、日本の真の独立を願う国民的な運動が起こった。しかし条約改定は強行された。

翌1961年、米軍は日米安保条約に基づき電波灯台ロラン C 局を、北海道浦幌町十勝太と八丈島に設置する計画を日米合同委員会で通告した。「安保体制打破道民会議」で反対運動を起す。「ロラン基地反対共闘会議」(社共)が学習・オルグ活動を展開。1962年2月、浦幌町議会は13項目の附帯条件を付けて受け入れを決定する。8月、米軍が鹿島建設と工事契約を交わす(工費3億8448万円)。8月物資搬入を阻止。十勝軍事基地対策委員会。9月29日、全道労協が基地対策会議に相談なく闘争終了を宣言(全道労協と鹿島建設の間で、ピケを解く代わりに資材搬入はしないとの休戦協定が結ばれる)。十勝軍事基地対策委員会は、10月18日全道労協に対し「地元意見を無視して休戦協定を締結したことは納得できない」との質問状を提出する。1963年秋、ロラン C 局完成。(八丈島は設置阻止)。

1968年12月、帯広平和委員会と民青十勝地区委員会は60名で現地調査。以降、撤去を求める現地集会が帯広安保実行委員会により組織された。1978年、帯広市で「ロラン C 基地調査と全道基地活動者集会」が開かれた。

③ 自衛隊上陸演習反対の闘い (1977-)

1977年6月、全国初の「他方面区演習」が行なわれ、東部方面隊第1師団が隊員約1,000人規模で矢臼別演習場に移動した。その一部が十勝管内大樹町旭浜で上陸訓練を実施。LST「おじか」で車両15両、61戦車4両、105mm砲2門、隊員153人を上陸させた。その後、1984年までの間6回、中部方面隊や西部方面隊、東部方面隊が旭浜で上陸訓練を実施した。

1985年からは、浜大樹に場所を移して実施している。1987年12月、町有地を買収し、全国初の上陸訓練場「浜大樹訓練場」を新設した。1998年大型揚陸艇「おおすみ」が初参加しLCACを使用しての訓練を実施、その後訓練の様相は一変した。1999年90式戦車を国内初積み込み。2002年にはCH47-JAによる降下訓練、2004年には陸から海への「揚塔訓練」

も実施され、2007年には十勝港(広尾町)を使用して南方転地演習を実施。

演習の名前は、三軍統合演習や北方機動特別演習、特科転地演習、北方転地演習、協同転地演習と変わってきている。2001年2002年、2003年には、民間空港である帯広空港を戦闘服や迷彩服、私服で使用した。

「浜大樹演習場設置反対十勝連絡会」を立ち上げた後、「上陸演習反対十勝連絡会」として、演習が行なわれる度に反対運動を続けている。今年2012年が30回目の上陸訓練。大樹町や帯広市での街頭宣伝やチラシ配布などを行なうとともに、演習のたびに現地海岸にヤグラを組み全道の皆さんと現地集会を開催し、演習がどんなに危険なものなのかを町民に訴えている。訓練は、年を追う毎に激しさを増し、機動的になり実戦的になっている。

4 日米共同訓練反対の闘い (1988/1992/1996/2000)

陸上自衛隊第5師団と米軍との共同訓練が4回行なわれた。1988年2月第四普通科連隊300人と米陸軍3-21歩兵大隊300人・グリーンベレー30人、1992年2月/3月第六普通科連隊250人と米第三海兵師団(沖縄)200人、1996年第四普通科連隊610人、後方支援・指揮・指令部隊・航空自衛隊(三沢)990人と米第41増強歩兵旅団(オレゴン州)380人、在日後方支援・指揮・指令・空軍(三沢)120人、2000年第六普通科連隊(美幌)200人と米第三海兵師団(沖縄)100人による共同訓練。

「米軍くるな!共闘会議」を結成して反対運動に取り組んだ。第5師団への中止要請。反対集会、抗議監視行動。然別演習場の訓練は、「扇が原展望台」から大半を見ることが出来る。極寒の中、双眼鏡やカメラ、ビデオカメラ、メモを持って監視や記録。アメリカから直接現地入りすることで心配される検疫体制、「それぞれの指揮系統に従って」相互に連携しながらの訓練、AH-1S対戦車ヘリやC130輸送機、F16が参加した。3回目までの訓練では、ホームビジット(家庭訪問)が組織され、1996年には一般家庭150戸にもなった。1992年2月、上富良野での日米積雪寒冷地訓練で初めて見られた「超越行動」※が1996年の然別演習場での訓練で行なわれた。

※「超越行動はA部隊(米軍)が敵陣地を奪取した後、B部隊(自衛隊)がA部隊の支援を受けて攻撃前進、新たな橋頭堡を確保する」(’92/3/19「朝雲」)ことを交互に繰り返す。これは、別々の指揮系統では実施不可能な作戦であり、集団的自衛権行使の疑いがある。

5 戦車公道走行訓練反対の闘い (2005/2006/2007/2008/2009/2010/-)

自衛隊第5師団は、2004年に旅団となった。翌2005年から「旅団創立記念日」に記念式典を実施。式典で「鹿追駐屯地」にある戦車を展示する。2005年9月、74式戦車4両、90式戦車4両・回収車1両を、道道・国道・市道を走行訓練しながら移動した。2006年は90式戦車9両・回収車1両、2007年と2008年は90式戦車5両・回収車1両、2009年と2010年は90式戦車3両・回収車1両。

「有事法制反対十勝連絡会」で反対運動を展開している。第5旅団、開発建設部、土木現

業所、帯広市に訓練反対と道路使用不許可を要請。深夜に抗議行動、追跡行動。

昨年は、東日本大震災の影響で予算が準備でき、戦車を解体してトレーラーで移動。今年も予算が確保出来たので、公道自走訓練はなかった。

6 公有地や民有地でのパラシュート降下訓練反対の闘い (2008-)

2008年の1月、突然地元新聞に第一空挺団が十勝管内鹿追町の町育成牧場でパラシュート降下訓練を実施したことが、写真入りで報道された。「有事法制反対十勝連絡会」ですぐに抗議と中止の要請を行なった。2009年芽室町の民有地(小麦畑)で実施するとの情報があり、第5旅団を通じて中止の要請。現地で反対抗議監視行動。2010年からは鹿追町と芽室町両方で降下訓練が実施されている。演習場外での軍事訓練を許さない闘いを続けている。

7 終わりに

まだまだ、語り尽くせない闘いの歴史がある。「十勝飛行場返還運動(1981/82/83)」、「然別演習場跳弾事件(2001)」、「非核平和都市宣言」(1985-1998/十勝管内すべての自治体で宣言済み)などや、旧大津村での米軍基地設置阻止の闘い、然別演習場拡張阻止の闘いもある。

これまでの先達の優れた活動に学び、これからの活動に活かしていきたい。

